

(1) 身近な環境問題の解決に向けて提案する文章を書くことを理解し、読み手が納得して提案を受け入れることができる文章にするためにはどうしたらよいかを考える。

予想される子供の疑問: 提案する文章はどのように書けばよいのだろう。  
整理し、焦点化した疑問: 読み手に提案を受け入れてもらうためには、何に気を付けたらよいのだろう。

➡ <課題> 事実と意見とを区別して書く力を身に付ける。

(1) 学習のねらいを確認する。

教師: 最近、地球環境に関する話題をよく耳にしますね。身近なところでも、環境問題の解決のために自分たちにできることはないでしょうか? 解決方法を提案する文章を書き、「〇〇小 環境保全プラン」として隣の学校の友達に発信してみましょう。

最近、水を出しっぱなしにしている人が多いけど、何とかできないかな…。提案する文章って、どう書けばいいんだろう?

(2) モデル文を読み、提案文を書く際に大切にすることについて話し合う。

伝えたいことを項目ごとに分けて書いてね。(構成)

新聞記事の内容と自分の考えを分けて書いてね。(事実と意見)

提案内容がはっきりしているから、すぐに取り組みそう! (具体性)

「提案します わたしたちにできる「△△△」」

- 1 提案のきっかけ
- 2 提案
- 3 具体的な解決方法

提案文を書くためのポイントを教師が教えるのではなく、児童自身に気付かせていくことで、学習への主体性をもたせることにつながります。

提案します わたしたちにできる「プラスチックの3R週間」

■ **知っていますか プラスチックごみの問題**

わたしたちの周りには多くのプラスチック製品があります。例えば、ペットボトル、ストロー、レジぶくろなどです。プラスチック製品のおかげで、わたしたちは便利な生活を送ることができています。

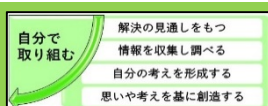
しかし、これらのプラスチック製品がごみになると、大きな問題になります。最近の新聞には、海岸に打ち上げられたクジラの胃の中からペットボトルなどが発見されたという記事や、森のサルがプラスチックごみを食べてしまったという記事がありました。わたしは、プラスチックごみが生き物に深くないきょうをあたえていることに ひじょうにおどろきました。かん境省のホームページによると、世界のプラスチック容器の生産量は、1964年は1500万トンだったが、2014年には3億1100万トンになっているそうです。以前に比べて増えていることが分かります。

■ **みんなで減らそう プラスチックごみ**

わたしは、便利だからといってプラスチックを当たり前のように使うという考えを あらため、プラスチックごみを減らすためにできることをしたいと思いました。そこで、わたしたちにできる「プラスチックの3R週間」を提案します。3Rとは、ごみそのものを減らすリデュース (Reduce)、くり返し使うリユース (Reuse)、ごみを資源に変え、再び利用するリサイクル (Recycle) のことです。

■ **やってみよう プラスチックの3R**

家の人といっしょに、まずは1週間、プラスチックごみを減らすことに取り組みんでみませんか。実行できたら口の中に印を入れ、どのくらい実行できているのかを たしかめましょう。他にも具体的な行動が見つかったら、書き加えて実行してみましょう。



(2) 調べたことをもとに、事実と意見を区別して提案文を書く。

子供の「見方・考え方」: 事実と意見とを区別して書くには、どうすればよいのだろう。  
課題解決の視点や方法: 事実… 出典を示したり、引用したりして書く。

意見… 意見だとわかるように文末等を工夫して書く。

➡ <視点> 出典の示し方、意見の示し方を意識しながら提案文を書く。

(3) 書籍やインターネット等で、自分が課題とする環境問題について調べ、「1 提案のきっかけ」を書く。

事実を示すためには、「出典」や「引用」が重要です。小学校段階から、著作物の利用に関するルールやマナーを理解させることを意識して指導をすることが大切です。

(4) 身近な問題の解決方法を考え、「2 提案」と「3 具体的な解決方法」を書く。

提案の示し方の例

- 〇〇新聞に、〜という記事が掲載されていました。
- 〇〇のホームページに、〜とあります。
- 「〇〇」のホームページに、〜とあります。

出典の示し方の例

- 〜が必要です。(強調)
- 〜と思います。(意見)
- 〜ではないでしょうか。(投げかけ)

教師: 著作物者には「著作権」という権利があります。出典を示すために、書名や著者、発行者、サイト名等を必ずメモしておきましょう。

調べたことを元に、提案や具体的な解決方法を書きましょう。自分の意見を示す時には、事実と区別できるように表現に気を付けましょう。

新たな考えに気付く  
友達と互いに学び合う  
自分の考えを伝える

広げ  
深める

### (3) 書いた文章を友達と読み合い、読み手に受け入れてもらえる提案文になっているか、話し合う。

主体的に学ぶ姿：友達との共有を通して、互いの提案文への意見や感想を伝え合う。  
考えをつなぐ手立て：提案文を書くためのポイントに関する意見や気付きを取り上げる。  
→ 〈展開〉提案文の内容を取り上げながら、具体的によいところや改善すべき点を伝え合う。

(5) 友達と提案文を読み合い、分かりやすい事実の示し方や相手に伝わる意見の示し方を意識して書いているかを話し合う。

- 「水は無限だと思いませんか？」と呼びかけの言葉があったので、内容にひきつけられたよ。
- 出典は書いてあるけど、いつの情報かわからないから「〇〇年」と示した方がいいんじゃないかな。
- 「決して～ではありません」という表現が、伝えたいことを強調しているね。
- 具体的で身近な問題が書かれているので、解決したいと考えたきっかけがよくわかるね。

友達と互いの提案文について話し合う活動を通して、新たな気付きや視点をもつことにつながり、自分の提案文の推敲に役立てることができます。

提案します わたしたちにできる「セーブウォーター作戦」

1. 水は無限だと思いませんか？  
水。それは、わたしたち人間にとって、いや地球に生きる全ての生物にとって欠かすことができない大切な資源です。特に、人間は、飲み水としてだけでなく、お風呂や洗たく、手洗い等、様々な場面で水を使っています。  
日本では、じゃ口を回せば安全な水が流れてきますが、世界を見渡すとそうではない国の方が多数です。何時間も歩いてやっと水源にたどりつくという地域の映像を見たことがある人もいないのでしょうか。  
しかし、日本も他人事ではありません。日本の人口一人あたりの降水量はオーストラリアの30分の1以下(国土交通省「日本の水資源」より)で、決して豊かではありません。  
それに関わらず、わたしたちの学校では、掃除の時間や休み時間に、水を出しっぱなしにしている状況が見られます。わたし自身もそうだったので、この状況を何とかしたいと考えました。

2. 水の使い方 ～三つの作戦～

新たな疑問をもつ  
学んだことを確実に身に付ける  
学んだことをまとめる  
思考の過程を振り返る

まとめ  
あげる

### (4) 話し合ったことをもとに自分の文章を推敲し、学習の振り返りを行う。

自分の思考の振り返り：提案文を書くときは、読み手にとって納得できる文章を書くことが大切である。  
考えを整理させる視点：事実と意見を区別して書けたか。  
→ 〈整理〉参考文献等を引用して事実を書く。意見を示す表現を用いて書く。

(6) 友達の意見を参考にして自分の文章を推敲し、清書する。

自分の意見や提案が伝わってよかったです。特に、自分が強調したいと思って工夫したところがうまく伝わったのが嬉しかったです。出典の示し方で足りないところがあったので、書き足します。

### 自分の言葉で学習のまとめを書く

(7) 振り返りを行う。

振り返りシート  
提案を受け入れてもらった  
めには、「何が問題なのか」「自分はどう思うのか」「どう解決すればよいのか」をわかりやすく伝えることが大切だとわかりました。事実と意見の示し方を工夫することの重要性もわかりました。

「〇〇小環境保全プラン」が完成しましたね。他の学校の友達の感想が楽しみです。この学習を振り返り、自分が工夫したことや大切にできたことなどを書きましよう。

教師

「〇〇小環境保全プラン」を読み合う活動を行った後、単元での学びを振り返る活動を行います。身に付けた力などを具体的に記述させることで、児童の学びを把握することができます。

〈関連する場面〉  
「ひろがる言葉 六上」教育出版 自分の考えを発信しよう  
「国語 六 創造」光村図書 私たちにできること

〈関連する問題〉  
H25B2ニ 資料の中から引用して書く  
H29B2ニ 引用する文章を選択する